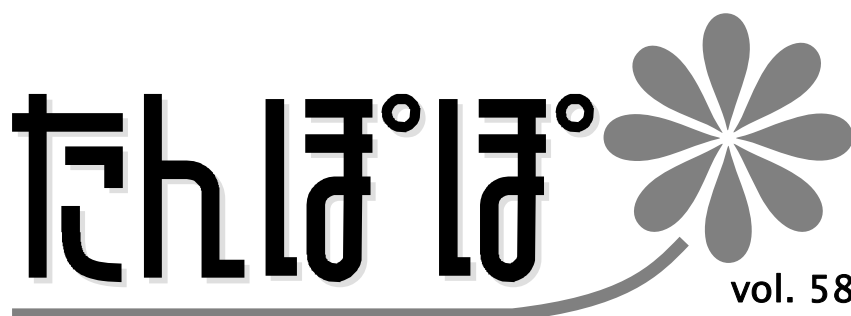




平成19年4月発行

発行者 放送大学

富山学習センター

責任者 所長 渡邊 裕司

富山学習センター所長就任にあたって思うこと

富山学習センター所長 渡邊 裕司

4月2日の午後、放送大学学園の本部（千葉市幕張）を訪問し、そこで丹保憲仁学長から富山学習センター所長の辞令を頂戴しました。そして、放送大学の概要や課題等々について説明を受けた後、京都学習センター所長の宮崎昭先生の講演を拝聴しました。私は宮崎先生のことを全く存じ上げなかったのですが、何故、本部の方々が宮崎先生の講演をセットされたのかはお話を伺ううちに十分理解できました。先生は京都学習センター所長に就任されて以降、独自のアイデアを生かした企画で面接授業やセンター外での学習活動を実現してこられた方でありました。先生のお話の中で特に感銘を受けたのは、①面接授業の講師として、京都在住の先生だけでなく、各学問分野で特徴のある教育研究をしておられる、関西や他の地方在住の先生方を積極的に起用しておられること、②京都市内の各種専門学校との単位互換をはじめ、種々の共同事業を介して放送大学の全科履修生の増加を図っておられること、③センター外での学習の場として、京都大学がもっている北海道の演習林や桜島の火山観測所等を利用されていること、の3点でありました。

富山学習センターの面接授業やセンター外での授業を企画するにあたって、京都の真似をしたいと思ってもすぐにできることではありません。ですから富山では富山県にしかない資源を材料として、面接授業やセンター外活動を立ち上げられたらと考えています。

富山県を代表するものは標高3千メートルの立山連峰の自然環境とそれによって育まれた生活や信仰、日本海を縦断した北前船による交易や富山湾での定置網漁業の話題、家庭薬を中心としたくすりの配置販売と製薬産業の成り立ち、等々沢山の話題があるように思います。しかし、上記の話題そのままでは富山県で生まれ育った人たちにとっては当たり前の話であるかもしれませんので、履修生の皆さんの興味と意欲を掻き立てるような時代の先端的な内容も盛り込んだ授業とするためにはひと工夫する必要がありそうです。周りの方々と相談してそれらの話題と内容を練り上げたいと思います。

「鉄は熱いうちに打て」の例え通り、新任のセンター長として自分自身の意識が高まっている間に、富山の特徴をもつ授業を一つ立ち上げられたらと思っています。また、富山学習センターの客員教授や職員の方々のご協力を得て、本センターで受講している履修生の皆さんの学習意欲が長期間にわたって高揚するような企画を模索したいと思います。